

盛岡大学・盛岡大学短期大学部

Mori Dialog

[モリダイアログ]

vol.2
June 2021

「愛と奉仕」

引き継がれる、
建学の精神

特集「愛と奉仕」	2
創立70年の歴史	4
研究室紹介	6
在学生紹介 盛大ストーリー	12
卒業生メッセージ	13
部署紹介	14
EVENT NEWS	15
NEWS & TOPICS	16



「愛と奉仕」 キリスト教精神に基づく建学の願いを今に

盛岡大学附属高等学校敷地内
学校法人盛岡大学 細川泰子記念礼拝堂

人々の健やかな暮らしを願い、
社会に貢献する人材の育成を目指して
盛岡大学・盛岡大学短期大学部を創立した細川泰子。
キリスト教精神に基づいた建学の精神は、
現在も教職員や学生たちに引き継がれています。

思いやりのある、 社会に奉仕できる人材の育成を目指して

創立者である細川泰子先生は、学問を学ぶには、一人の人間として人生をしっかり考える精神的な土台があるべきだと考えられました。それが、「愛と奉仕」を旨とするキリスト教精神でした。

今、自分中心の考え方をする人が多くなっている世の中で、相手のことを考えたり、困っている人たちに心を寄せられる優

しい気持ちを持った人材を育てることが、細川先生の望んでいたことではないかと思っています。勉強して知識や技術を得ること、思いやりのある人格を持つことは両方とも大切なことです。社会の役に立とうとする、心優しい学生を育てることが本学のすべきことだと感じています。

学生は1年次に「キリスト教学」を必修

で学ぶほか、週に一度行われる礼拝や感謝祭、クリスマスに実施する寄付や献金などを通して、慈愛や助け合いといったキリスト教の教えを自然に学んでいきます。また教職員も、常にキリスト教精神にのっとった指導を心がけています。学生の皆さんには、本学で学んだキリスト教の教えを、これからの人生に役立ててほしいと思います。

理想の教師像を示してくれた キリスト教精神

盛岡大学に入学して初めてキリスト教に触れました。礼拝を終えた後は安らいだ気持ちになりましたし、牧師先生のお話を聞いたり聖書を読んだりすると、人のために心を込めて行動しようという気持ちになりました。大学で学んだキリスト教精神を忘れず、将来は子どもの心に寄り添える小学校の教員になりたいと考えています。

宗教主任児童教育学科教授
小林みゆき

文学部児童教育学科3年
栗田百音

学校法人盛岡大学

創立 70 年の歴史

2021年、学校法人盛岡大学が設立して70年の月日が経ちました。

創立者、細川泰子の意志を受け継ぎ、
愛と奉仕の精神と、深い学びをもって
多くの学生たちを社会へ送り出してきた
生活学園からはじまった盛岡大学・盛岡大学短期大学部。
この記念すべき年に、これまでの歴史を振り返ります。



三戸町校舎



帷子校舎



創立者 細川泰子

1951

昭和26年6月15日
岩手県知事から各種学校
生活学園の設置認可を
受ける

1957

昭和32年4月1日
愛育幼稚園開園

1958

昭和33年4月1日
生活学園高等学校開設

1961

昭和36年4月1日
盛岡調理師学校開設

1966

昭和41年4月1日
生活学園短期大学
保育科開設

1964

昭和39年4月1日
生活学園短期大学
食物栄養科開設



生活学園の授業風景

1973

昭和48年4月1日
松園幼稚園開園

1974

昭和49年9月30日
旧八幡平校舎改築落成



旧八幡平校舎

1981

昭和56年4月1日
盛岡大学文学部英米文学科
及び児童教育学科開設



現在の滝沢市にある砂込キャンパス

1987

昭和62年4月1日
盛岡大学文学部
日本文学科開設

1989

平成元年7月25日
法人本部及び
盛岡大学が厨川
校地から滝沢市砂込
キャンパスに移転
9月21日
盛岡大学・生活学園
短期大学新校舎献堂式

1995

平成7年4月1日
法人名を学校法人生活
学園から学校法人盛岡
大学に変更

1990

平成2年10月12日
盛岡大学短期大学部が
砂込キャンパスに移転



生活学園教会(礼拝堂) 当時の写真(旧四ツ家カトリック教会を移築)

2005

平成17年4月1日
盛岡大学文学部
社会文化学科開設

2001

平成13年6月15日
学校法人盛岡大学創立
50周年記念式典
生活学園教会(礼拝堂)を
学校法人盛岡大学
細川泰子記念
礼拝堂と命名



学校法人盛岡大学細川泰子記念礼拝堂

2016

平成28年9月16日
盛岡大学新校舎竣工



STUDENT HALL内「岩姫 LOUNGE」

2010

平成22年4月1日
盛岡大学栄養科学部
栄養科学科開設

2021

令和3年
学校法人
盛岡大学創立70周年
盛岡大学開学40周年



細川泰子の著作集

短大校舎(厨川校舎)
細川学園長(左)

2016年に竣工された校舎(STUDENT HALL)



高校と大学、双方の現場を知る 実務家教員として 高大連携教育を推進

英語を通し生徒の世界を広げる先生になってほしい

大学卒業後教師となり、盛岡三高、不来方高校、大迫高校などで英語教諭、副校長、校長を務めてきました。2018年より、盛岡大学文学部の教授として教鞭をとっています。英語に特化した授業のほか「教職概論」という授業も担当しており、長年の教師経験も交えながら、学生たちには教職の魅力を伝えています。

高校の英語の授業は、ここ数年で大きく様変わりしています。以前は文法や英訳が主でしたが、現在はリスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能が重視され、教師も生徒も積極的に英語で話す参加型授業となっており、教師は指導するというよりむしろファシリテーター的な役割を担います。英語で世界のさまざまなトピックスに触れる機会も多く、本学で学んだ学生たちには、生徒が広い世界に興味を持てるような授業をしていってほしいと思っています。

附属高校校長を兼任。 高大が連携した教育を目指して

2019年度から、盛岡大学附属高校の校長も

兼任しています。高校では2021年度から「高大連携進学コース」を新設し、大学附属高校のメリットを生かした教育をスタートさせました。大学・短大6学科の出前授業を高校で行うほか、大学の公開授業に生徒が参加し、大学の教授や学生をアドバイザーに迎えグループ研究を行う（2年次）など、大学とより密接したカリキュラムを組んでいます。また3年次には、自分でテーマを決め卒業論文に取り組む機会も設けています。これらのカリキュラムを生かしながら、高校と大学が連携したトータル7年間（短大の場合は5年間）の教育を実践していきたいと考えています。

「教育は究極の社会貢献だ」という言葉があります。高校の現場を知り、なおかつ大学での教育にも携わる実務家教員として、常に学生たちの背中を押す存在でありたいと思っています。

文学部 英語文化学科
教授

やまがた もりへい
山形 守平

盛岡第三高校、不来方高校、大迫高校で英語教諭を務めた後、岩手県教育委員会、宮古高校副校長、大槌高校校長、盛岡三高校長を経て退職。2018年より現職。



文学部 日本文学科
准教授

さとう まさる
佐藤 優

高校の国語教師を長年務め、2019年より盛岡大学准教授。源義経とその関連人物の伝説、寺社縁起と伝説の関連性、口頭伝承と文字文化の関連性などを研究課題としている。

多角的な視点と さまざまな史資料から 庶民の文芸観を紡ぎ出す

庶民の文芸観や歴史観を 伝承という視点から紐解く民俗学

古典文学研究は、複数ある写本を比較検討し、できるだけ原典に近い本文を作成する基礎的作業を経たあとで、そのテキストから厳密な解釈を紡ぎ出していきます。また、歴史研究は、史料批判を経た古文書を主な研究対象とし、そこから精確な歴史像を構築していきます。これらの研究は、「文字（テキスト）」の分析を中心とした学問だといえるでしょう。

ところで、私が専門としている民俗学は、『遠野物語』で知られる柳田國男が確立した学問です。近代教育制度が普及するまで、文字を自由に読み書きできる人々は限られていました。また、身の回りの生活を文字で書き残すことも一般的ではありませんでした。だから、柳田は庶民の文芸観や歴史観を構築するためには、文献以外の分析対象を見つける必要があると考えたのです。そこで、彼が着目したのが、年中行事や習俗、昔話や伝説といった民間に伝承されてきた民俗でした。

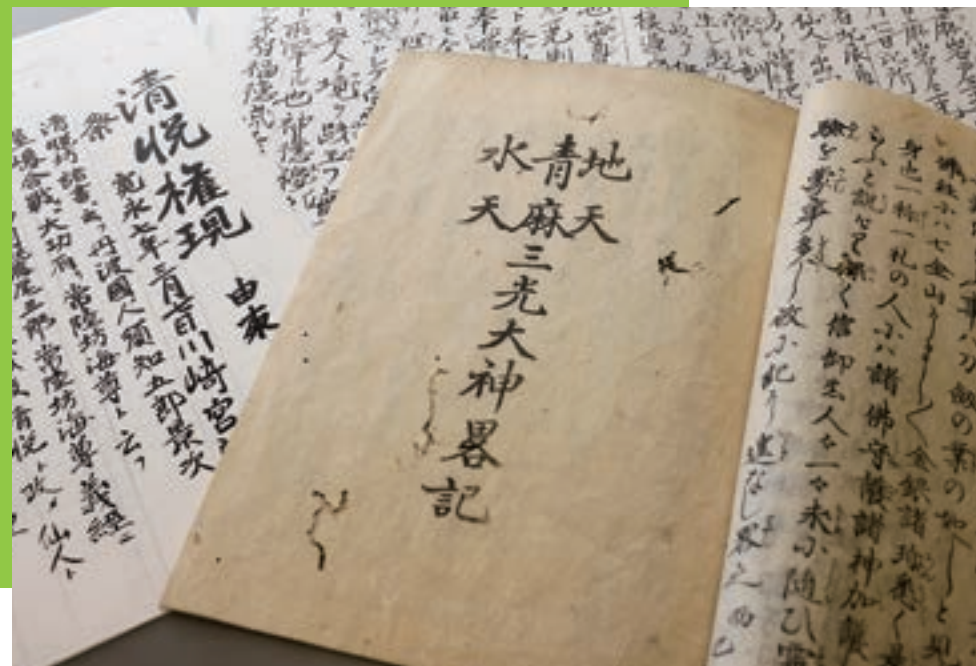
こうした経緯から1980年代くらいまでの民俗学、とりわけ私がこれまで特に勉強してきた口承文芸研究は、聞き取り調査から得られたデータ（録音された昔話など）を主たる分析材料とし、文字で書かれた史資料はその関連資料と位置づけられていました。

口頭伝承と文字文化の 両方を研究対象に

しかし、1990年代ごろから、各地に残されている寺社縁起、民俗芸能や諸職の由来などが書いてある文献も口承文芸や民俗研究の分野で積極的に活用されるようになります。たしかに、こうした史資料は、方言がそのまま文字化されるなど読みにくい文体を持ち、内容も稚拙とされることがから、これまでの文学研究や歴史学だけでなく民俗研究においても等閑に付されてきたくらいがあります。しかし、これらの史資料は、内容はもちろん、保管されている場所や形態・書写の方法などを分析すると、私たちのくらしの中における文芸観や歴史観を解き明かすヒントを教えてください。私自身も、できるだけ口頭伝承と文字文化双方の視点から対象を分析してきました。

3年前から岩手県で暮らすようになりましたが、ここは民俗研究のフィールドとして最適な場所だと感じています。というのも、現在でも民俗芸能が各地で演じられており、由来を伝える巻物も数多く伝存されています。県内各地にできるだけ足を運び、地域の方にもご協力いただきながら、これからも庶民の文芸意識や歴史認識をできるだけ明らかにしていきたいと考えています。

Faculty & Research



Episode 「何の先生なんですか？」

中学、高校ではバレーボール部に所属し、教員になってからは指導者として活動してきました。春高バレーなどで輝かしい成績を取っている不来方高校バレー部では初代の監督を務めました。そのイメージが強いせいか、私のこ

とを「体育の先生」だと思っている人も多いようです(笑)。附属高校の校長を兼任したのと時を同じくして、岩手県バレーボール協会の会長も務めることとなり、「三足のわらじ」の慌ただしい日々が続いています。



仙台の青麻神社境内にある「常陸坊海尊靈驗之地」石碑
(1996年11月吉日建立)2010年3月29日佐藤撮影

Episode 時を超え、場所を超えて 現れる常陸坊海尊

私の研究のテーマの一つが常陸坊海尊です。『義経記』に登場する人物で、衣川合戦の際に逃亡し、その後仙人として長く生き義経の物語を語り伝えたとされています。紫波町にある青麻神社の縁起に登場したり、宮城県岩切にある

青麻神社に祀られていたり、菅江真澄の日記に一関市門崎を訪れたとも記されています。伝説がさまざまな形で各地に伝えられ文字として残っていることに、民俗学的興味をかき立てられます。



スポーツを
さまざまな視点から分析

誰もが、生涯にわたり
スポーツを楽しむために

私が専門とする体育学はさまざまな分野の複合領域で、医学、物理学、哲学、心理学、社会学など、いろいろな側面からアプローチできる学問です。若い頃は生理学やバイオメカニクスなどについても研究していましたが、現在はスポーツ社会学に近い内容について研究しています。

スポーツをする人の中には、強化を目指す人、レクリエーションとして楽しむ人、体力向上を目指す人などさまざまな目的を持った人がいます。しかし、昨今の報道でも目にするように、体罰やハラスメントによりスポーツが嫌いになったり、続けられなくなったりする人がいるのも事実です。そのような人をなくすためにはどんな環境を整えればよいのか。全国から事例などを取り寄せ分析することで、その背景にある問題を探り、生涯にわたって多くの人がスポーツを楽しめるようにしたいと考えています。

変化が激しい社会の中で
新しいスポーツの取り組みを考える

今、スポーツと産業をどう結びつけるかが話



題になっています。最近ではプロスポーツのみならずアマチュアスポーツの世界でも、スポンサーをつけたり、クラウドファンディングを活用するなどさまざまな支援の形が存在します。企業側からすれば、応援したい気持ちに加え会社や商品の知名度向上にもつながりますし、選手側からすれば、多くの人々に応援されてうれしいですし、活動の資金等の援助があれば、より良いスポーツ環境の整備にも繋がります。

両者にとってメリットのあるこの関係性を、地方や、もっと小さい単位の団体にもうまく適用できないかと考えています。将来的には、支援してほしい団体と支援したい企業や団体、個人とのマッチングに対し、アドバイスができるような研究結果をまとめられるといいなと思っています。

文学部 社会文化学科
教授

ちば ともゆき
千葉 智行

専門は体育学（バレーボール）。岩手県バレーボール協会役員のほか、過去には日本バレーボール協会役員や、バレーボールワールドカップの役員も務めた経験を持つ。日本協会が主催する各種大会の決勝審判を務めることができるA級審判員を経て、現在はJVA名誉審判員として後進の指導にあたる。



【 Episode 】 自分に合ったスポーツ習慣を

新型コロナウイルスの流行や働き方改革などの影響で、自分の時間が確保しやすくなった昨今。新しい生活様式のもと、時間をどのように過ごすのが一人ひとりに関わっています。その選択肢として挙げられるのがスポーツ。健

康のために、また歳をとってからも自分のことは自分でできるように運動習慣を身につけておきたいものです。いろいろな運動やスポーツに挑戦してみて、自分に合ったもの、続けていけそうなものを探してみたいですね。



文学部 児童教育学科
教授

ま どころ 間處 耕吉
こうきち

大学院卒業後、広島県内の中学校や高校に理科教諭として勤務。2015年より大学の講師、准教授を経て、2020年、盛岡大学文学部に教授として赴任。

効果的な理科学習のあり方を
独自の視点で探究

実践的な研究授業を通して
学習効果を探る

理科教育を専門とし、効果的な教育方法や、学習者がどのように理解を深めていくかなどを研究しています。盛岡大学に赴任したのがコロナ禍にあった2020年なので岩手ではまだ実施できていませんが、小・中学校などでこちらが考えた授業を実践させてもらい、事前・事後の変容や理解の程度の変化を調べたり、聞き取り調査をしたりして、その効果を検討しています。

現在教育現場では、「予想する－仮説を立てる－検証方法を検討する－実験する－結果をもとに意見交換し新たな知見を得る」という探究学習が推奨されていますが、実は私はこの学習方法に疑問を抱いています。知識がまだ十分でない子どもたちに、この過程は有効ではないと思うのです。まずはしっかりと情報や知識をインプットすることが大切。主流とは外れてしまいますが、私はそのように考えて研究授業などを組み立てています。

ICT技術も積極的に活用

子どもたちの理解を深めるため、タブレット等を使ったICT教育も積極的に取り入れています。視点によって変わる月の見え方や、特定の結晶を色が変わることですす鉱物の電子顕微鏡画像など、インタラクティブに動く画像や資料を授業に用いたりもしています。

最近ではVRにも興味を持っていて、360度画像を使って野外観察の疑似体験ができればいいなと。今後、オンライン授業が増えていくことも考えられますし、行きたくても行けない子どもたちの役にも立つかもしれません。自然豊かな岩手で、いろいろな画像を撮りたいなと思っています。



【 Episode 】 フィールドワークで、地域の資源が
すばらしい教材であることを知る

このコロナ禍は、大学の授業にも影響を及ぼしました。学生同士の密を避けるため、昨年度の「教材実験」の授業はすべてフィールドワークに振り替えました。滝沢森林公園や焼走溶岩流で自然観察し、金石では製鉄の歴史をたど

り、星空を観察したり博物館を見学したりもしました。地域の資源がすばらしい教材になることを、学生たちに知ってもらいたい機会になったのではないかと思います。



現場で働く管理栄養士の よりよい活動 研究者の立場からサポート

卒業生と共に、 地域課題の解決に取り組む

県の保健所に管理栄養士として勤務し、18年間にわたり地域の栄養面からの健康づくりに取り組んできました。栄養科学部の前身である短期大学部食物栄養科時代から教鞭をとり、その後、食物栄養科が4年制に移行し栄養科学部となるのに伴い短大に勤務しながら大学院に進学し、修士・博士を取得しました。

現在は、県沿岸部の公立保育所に勤務するゼミの卒業生と共同し、地域の課題でもある小児肥満の予防および改善に関する、管理栄養士の効果的な実践について研究を始めています。今後、親御さんへの実態調査などを行い、それをもとに効果的なアプローチの仕方を検討し、実践・評価へとつなげていきたいと考えています。また、保健行政や学校行政との連携を図りながら、横断的に地域課題の解決を目指すモデルの構築も目指しています。

現場で働く管理栄養士を サポートするのが自分の役割

最終的な目標が「健康づくり」である管理栄養士にとって、実践した取り組みがきちんとし



た成果を出せたかどうかという評価が重要になってきます。この評価があってこそ管理栄養士の存在意義を示すことができますし、行政との連携もスムーズになるはずです。

現場で働く管理栄養士がよりよい活動をし、地域の健康づくりにつなげていくために、卒業生をはじめ現場で実践者として働く管理栄養士の皆さんをサポートしていくのが私の役目だと感じています。さらにその実践方法や成果を発信していくことにより、得られたノウハウを横展開し、効果的な実践の拡大再生産を図り、最終的には管理栄養士の活動の質の向上につなげていきたいと考えています。

栄養科学部 栄養科学科
教授

佐藤 かなえ

岩手県内の保健所に管理栄養士として18年間勤務した後、盛岡大学短期大学部食物栄養科へ。2014年より4年制となった栄養科学部で引き続き教鞭をとる。



「Episode」 「発信」にも力を入れています！

大学院に通っていた頃の研究テーマは「子どもの食育の評価」。よくかんで食べることの大切さを子どもとその親御さんに楽しく伝える教材として、「カムカム王国のカムカムブック」という小冊子や紙芝居を作成しその効果を検証しました。また、食環境整備の一環として、学生に

朝食のメリットを伝える取り組みも実施しました。盛岡大学生協と佐藤ゼミがコラボして若い世代に浸透しているインスタグラムを通じた情報発信や期間限定の100円朝食イベントも実施する環境づくりを展開しました。



「Episode」 記憶の奥底に眠る風景を原寸大で再現

今年の1月下旬から4月まで、もりおか啄木・賢治青春館で開催した個展「二十億光年の扉」では、歴史ある建物にインスパイアされて、「外から内に入る」という行為自体を作品化してみました。8月中旬からは、花巻市東町にあ

る元農業倉庫で新作のインスタレーションを公開する予定です。岩手県に唯一現存するボンネットバスが雪の回廊の中から現れる、私の記憶の深部に残る風景を主に段ボールと白ボール紙で原寸大で再現しています。

現代美術を学ぶことで、 固定概念にとらわれない ものの見方を知る



短期大学部 幼児教育科
教授

長谷川 誠

生活学園短期大学時代の1981年より、本学の美術教育に携わる。大学での教育の傍ら自身の制作活動も精力的に行っており、個展・グループ展を定期的に開催しているほか、作品は岩手県立博物館にも収蔵されている。

Faculty &
Research



現代美術が幼児教育を学ぶ 学生に与えるものとは

私の専門は現代美術で、自身の作品制作および、自分の作品も含めた現代美術作品の考察を行っています。一般的に現代美術とは戦後（1950年代以降）に制作された美術をいい、それ以前にあった美術に関する既存概念から脱し、新たな領域を探る作家や作品のことを指します。

現代美術と幼児教育は一見かけ離れたもののようにも思われるかもしれませんが、現代美術を学ぶことで、学生たちは固定された造形や表現のあり方にとらわれずに子どもたちの作品や子どもたち自身と向き合うことができるようになります。そのことで、より深く子どもを知ることができるようになると思うのです。学生たち自身も、初めて触れる現代美術に「こんな表現があるんだ。これも美術なんだ」と、とても素直な反応を示してくれます。

作品を通して意識の交感

私が作品を制作する上で意識しているのが、地域や地元という観点です。身近な生活環境の中で、特に自然との関わりから生まれるかすかな振幅のようなものを作品化しています。

私は、表現は自己完結するものではなく、それを見る人、感じる人がいて成り立つものだと考えています。個展やグループ展を定期的に開催していますが、それは作品を通して来場者の方々と意識の交感を行いたいからです。同じ地に暮らす人、たまたま観光で訪れた人、偶然通りかかって作品を見た人…、作品を見た皆さんのさまざまな反応が私にいろいろなことを教えてくれ、またそれが次の作品に反映されていくのだと思います。

今後も、地域社会との関わりを通して生まれるテーマをもとに、継続的な制作・発表を続けていきたいと思っています。



丁寧な指導で、不安だったピアノも克服

保育士になろうか、それとも美容師になろうかと迷っていた高校時代。小学3年生から続けていた民謡を続けるためには地元に進学の方がいいけれど、保育士になるために必要なピアノは未経験…。躊躇していた私の背中を押してくれたのは、幼児教育科に進学していた同じ高校の先輩の言葉でした。「ピアノ初心者の人も多いよ。一から丁寧に教えてくれるから大丈夫だよ」その言葉の通り先生方は、私が不安に感じていたピアノをはじめ、さまざまなことを丁寧に、そして親身に教えてくださいました。またカリキュラムも、幼稚園教諭、保育士はもちろん、児童厚生員の資格をとるための勉強や実習もあり、幼児や児童の教育について幅広く学べたこともよかったと感じています。

友人との何気ない日常が大切な思い出に

短大最後の一年は、新型コロナウイルスの影響で学校のイベントも軒並み中止となり、授業もオンラインで行われるなど、友人たちと一緒に過ごす時間が少なくなったことが残念でした。その分、会えたときにはとてもうれしかったです。大学生活の財産は、友人たちと出会えたこと。励まし合いながら、刺激し合いながら共に勉強することができました。みんなと学食でわいわい言いながらお昼を食べたことが大切な思い出として心に残っています。

春からは、盛岡市内の保育園に保育士として勤務することが決まっています。子どもたちに、「こんな人になりたい」と思ってもらえるような先生でありたいと思っています。機会があれば、子どもたちにも民謡を教えてみたいですね。

(2021年1月取材)

MY CIRCLE

民謡



祖母のすすめで小学3年生のときに民謡を始めました。東日本大震災の後には、当時民謡を習っていた教室の皆さんと一緒に避難所や仮設住宅を慰問しました。涙を流したり、楽しそうに聴いてくださる皆さんの顔を見て、私の歌声で少しでも気持ちが明るくなったり気分転換になればいいなと思いました。聴いてくださる方のため、そして、今まで民謡を続けさせてくれた両親や家族のために、これからも歌い続けていきたいと思っています。

【受賞歴】

2018年 第42回全東北民謡選手権大会 優勝
2019年 第58回岩手県知事杯争奪民謡王座決定戦 優勝
2020年 第41回NHK東北民謡コンクール優勝大会大賞部門 優勝
2020年 令和元年度いわて民謡グランドチャンピオン大会一般の部 優勝



卒業生メッセージ



盛岡大学を巣立った卒業生に、
学生時代の思い出や、後輩への
メッセージを聞きました。

今の仕事に就いているのは 就職センターのおかげ

文系の私がドラッグストアであるツルハに入社したのは、就職センターの職員の方の後押しがあったからでした。今でこそ多くの方が知る企業ですが、私が入社した頃、東北には2店舗だけ。聞いたこともない会社でしたが、「これから東北にもどんどん進出してくる会社だよ」と職員の方から説明会への参加を勧められて。説明を聞いてみたら、そこで自分が働くイメージが持て、入社することを決めました。

店舗業務を経て、2013年から人材採用部に。現在は北東北3県を中心とした採用全般を担当しています。自分が採用に関わった社員が店舗でいきいきと働いている姿を見るとうれしくなりますし、採用した人の中にはすでに店長として活躍している人もいて、会社の将来を担う人材を見極められたことにやりがいや喜びも感じています。

さまざまな分野に興味を持ち 貪欲に学んだ学生時代

大学時代は、「受けられる授業は全部受けよう」と思っていました。いろいろな分野に興味を持って学んでいたなと思います。ゼミに入る前から、休み時間などを利用し教授室で近代文学について教えていただいたり、授業前の時間を利用し書道の先生に指導していただいたりもしていました。どの先生も、とても熱心に、親身に指導してくださいました。

大学での学びがすべて将来の仕事に直接役立つわけではありませんが、社会に出てみて、物事を考えるときや、人と話す際に生かされているなと感じることがたびたびあります。学生の皆さんには時間のある今のうちに、調べたり、質問したり、人に会ったりするなど、興味のあることには何でも積極的にトライしてほしいと思います。



現在は、採用担当者として盛岡大学を訪問する立場となった阿部さん。「モリダイ生はみんな真面目で礼儀正しいですね。でももっと積極的に発言してくれてもいいかな。NGな質問はありません。何でも聞いてくださいね」

部署紹介 教職員が連携したサポート体制により、学生一人ひとりを支援します。

2 教員養成サポートセンター

Teacher Training Support Center

全国的に、小学校教員の圧倒的な不足が問題になっています。また教員に対するネガティブな報道も多く、教員になることを途中で諦めてしまう学生も少なくありません。教員養成サポートセンターは、経験豊富な相談員の先生方のもと、教員採用試験対策はもちろんのこと、教師になりたいという学生の夢をかなえるためさまざまな側面からのサポートを行なっています。今後も盛岡大学から、これからの教育界を担うような優れた教員を輩出するためサポートしていきます。（教員養成サポートセンター 所長 上白石 実）
(2021年1月取材)



■ 2020年度教員採用試験合格者

	既卒含む	現役
小学校	122	48
中学校	14	3
高等学校	3	0
特別支援	4	-
合計	143	51



「教員養成サポートセンター」はその名の通り、教師を目指す学生をサポートするセンターです。小・中・高での教師経験のある相談員が常駐し、試験対策の勉強や面接、論作文などを指導するほか、勉強方法や進路の相談にも応じています。また、勉強会やガイダンス、学内の先生方による特別講座なども実施しており、教職課程を補強することで本学の教員採用試験合格率アップに貢献しています。

教員採用試験は、即戦力を求める試験です。合格して数ヵ月後には教壇に立つことになるため、そのスキルが身についているかを試験で判断されます。教員養成サポートセンターでは、実践的な子どもへの接し方や、目指すべき教師像、社会人としてのマナーなど、社会ですぐに役立つ知識や考え方も、ベテランの先生方が自身の経験をもとに指導してくれます。このような、教職課程とは違う形で教員養成をサポートする学内組織は全国的にも珍しいものです。



文学部 児童教育学科
(2021年3月卒業)
守村 京祐

教員養成サポートセンターにいらっしゃる先生方は皆さん現場経験のある方なので、これまでの体験談なども交えて指導していただきました。試験対策だけでなく、自分がどんな教師になりたいのかを考える機会にもなりました。教育実習に行き少し自信をなくしかけていた私でしたが、先生方から「教師になってよかったこと」などがポジティブなお話を聞けたり、的確なアドバイスをいただけたりしたおかげで乗り越えることができました。この春から、県内の小学校に勤務することが決まっています。子どもたち一人ひとりに平等に接することのできる教師になりたいと思っています。

Check it!

EVENT NEWS

盛岡大学・盛岡大学短期大学部にも春が訪れ、今年も多く の 学生たちが巣立ち、そして新たな学生が入学されました。
また、2021年は学校法人盛岡大学70周年の記念の年です。
節目を迎えさらにパワーアップするモリダイ・モリタンをチェック！



卒業式

コロナ禍ではありますが、令和2年度卒業証書・学位記授与式を開催することができました。昨年度は残念ながら中止となってしまったので、無事に開催できたことが喜ばしい限りです。卒業生の皆さん、今後のますますのご活躍をお祈り申し上げます。また、本広報誌は卒業生の皆さんにもお配りしています。お手元に届いた際は、ぜひ母校を思い出してください。(もしかしたら、今後のMoriDialog卒業生紹介へのご出演を、あなたにお願いするかもしれません！)



入学式

令和3年度入学生の皆さん、ご入学おめでとうございます。コロナや入試改革等で大変な受験期間だったかと思いますが、これからはきっと楽しいキャンパスライフが待っています。皆さんの今後の学生生活が、実り多いものとなりますように。

創立70周年を迎えて 「学校法人盛岡大学展」

戦後間もない岩手で、思案にくれる若者たちに生きる指針を示してあげたいという思いから私財を投じて学舎を建設し、地域に結び付いた実践教育に生涯をかけた細川泰子。

この度の展覧会では、学校法人盛岡大学が創立70周年を迎える年に、教育者として新しい時代を築いた岩手の女性、盛岡大学創立者・細川泰子の功績を讃えるとともに、大学所蔵の教育教材となっている深沢紅子作品を中心とした絵画収蔵品を多数展観、ご高覧いただきます。



会 期 2021年4月29日(木)～7月28日(水)
場 所 深沢紅子野の花美術館
〒020-0885 岩手県盛岡市紺屋町4-8
TEL 019-625-6541
FAX 019-625-6533
URL <http://www.nonohana.hs.plala.or.jp/>

観覧料 大人500円(団体20名以上400円)
高・大生300円 小・中生200円
開 館 10:00～17:00(最終日は15:00まで)
休館日 月曜日(祝祭日の場合はその翌日)
年末年始

Check it!

NEWS & TOPICS

盛岡大学・盛岡大学短期大学部に関する最新ニュースをお届けします。



3/27 モリタン Open Campus

高校2年生を対象に、人数限定で開催。学びの体験イベントや在学生との交流イベントで、本学の雰囲気を味わっていただきました。参加してくれた皆さんが、未来のモリタン生になってくれたのなら、大変うれしく思います。



ラッピング電車運行中!

この電車を見たことはあるでしょうか。実は、JR東北本線の盛岡～一ノ関間で、モリダイ・モリタンカラーの電車が運行しています。2021年9月までの期間限定。乗れたらラッキーですよ!



オリジナルグッズ完成

本学のロゴ入りグッズのバリエーションを増やしています。新作はマスキングテープとデコレーショングッズ、修正テープと付箋です。オープンキャンパスや進学相談会などで、本学に来てくれた高校生にプレゼントします!



空間除菌消臭装置「Aeropure」^{エアロピュア}

深紫外線LEDで菌やウイルス・においなどを低減し空間を除菌消臭できる装置、エアロピュア。取り込んだ空気に深紫外線LEDを照射し、1秒で90%以上、5秒で99%以上の新型コロナウイルスを不活化します。変異株への効果もあり!各教室に設置し感染対策を強化しています。



寄付情報

学校法人盛岡大学創立70周年・盛岡大学創立40周年記念募金

本年、本法人は創立70周年・盛岡大学は創立40周年を迎えました。充実した教育環境の整備を図り、質の高い教育内容を永続的に提供するため皆さまの温かいご支援をお願いいたします。

■ 募集期間
2021年4月1日～2022年4月31日

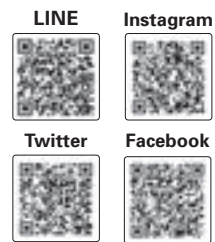
[受付方法]

- ① 現金をご持参
- ② 払込取扱票
(振込専用紙・振込手数料無料)でのお振込み

払込取扱票をご希望の方は下記までご連絡下さい。お送りいたします。

〒020-0694
岩手県滝沢市砂込808番地
学校法人盛岡大学 法人本部企画部企画課
TEL: 019-688-5656
E-mail: kikaku@morioka-u.ac.jp

盛岡大学の「今」を知るなら、公式SNSへ!



キャッチコピー

「対話の先に未来を創る」

「対話」とは、
「個人内で行われる対話」＝「考えること」
「自分と違うもの対等なものの中で成立するもの」＝「個の確立」
「自然や環境との対話」＝「自らの経験を豊かにすること」
などを意味します。

ロゴマーク

MORIOKA UNIVERSITYの頭文字「M+U」をモチーフに構成しました。10本の棒は十人十色、それぞれの個性を生かす。という意味が込められています。対話が知をつなぎ、人をつなぎ、未来へつないでいきます。



Mori Dialog

[モリダイアログ]

vol.2 June 2021

2021年6月発行

■編集・発行 盛岡大学・盛岡大学短期大学部 広報戦略室
■編集長 広報戦略室 室長 高城靖尚
■〒020-0694 岩手県滝沢市砂込808番地
■URL <http://www.morioka-u.ac.jp/>

Mori Dialog
モリダイアログ

盛岡大学の略称「モリダイ(Moridai)」と、対話(Dialog)をあわせた造語です。盛岡大学・同短大部のテーマでもある「対話」を通し、大学と社会、人と人をつなぐ広報誌を目指しています。